

後藤 栄之 展
「溪がよい、森がよい」
8月8日(金)～27日(水)

■メッセージ

平成元年度に、授業で始めたバードカービングで、参考作品を作ったのがきっかけで木彫りらしきものを始めました。

教師3年目に始めた、溪流釣り(フライフィッシング)で魚をはじめ多くの自然、山や川やその土地の人と触れ合う中で、手に入った素材(端材)で自分の身の回りのものを作るようになりました。大好きなアマゴが彫りたくなったら彫り、川辺で見つけた鳥が美しいと思えば彫り、釣りにつかう道具で自分でも何とかできそうなものは手を出してみたり…。竿を持たない時は水彩(スケッチ)を描いたり…と、自由、気ままに作ってきました。

作品と呼ぶには少々恥ずかしいのですが、自分の中で、久我記念館の空間に一度置いてみたいになりました…。

■略歴

- 1958 生れ 現在 50 歳
- 1982 九州産業大学芸術学部美術科卒
- 1982～ 中学校教諭(美術科)
- 1985～1995 須恵町勤務(須恵中～須恵東中)
- 1980～1995 グループ展 10 回
- 現在 新宮中学校勤務

ワークショップ
アートに触れる夏 その4
竹ペン・竹筆作り

- 日時 8月23日(土)
13:00 受付 13:30～16:00
- 対象者 小学校高学年以上(無料)
- 定員 20人(先着順)
- 申込み・問合せ先 久我記念館 ☎932-4987



アマゴとランディングネット



カワセミ

これから始まります
佐藤なほみ「立ちあがる風景」展
7月29日(火)～8月6日(水)



会議のはじめにあいさつをする庄野会長

会議の席上で、中嶋町長は「この事業は、交通空白地域の人たちの足を確保しようというものです。民間バスなどが通らない細かな運行を行い、駅や病院、商業施設などへの乗り入れなども考えていかなければいけません。今後、十分な審議をお願いいたします。」とあいさつをしました。

これは、国が行う地域公共交通の活性化および再生を、総合的に推進するための計画の一環として取り組むものです。公共交通機関の連携と、家用自動車から公共交通への転換を図るために、利用者の移動実態調査を行なって、利用者が望む運行状況や時間帯、料金などの調査をするものです。

同協議会は、副町長や町議会議員、鉄道やバスなどの学識経験者など11人で構成されます。この日の会議は、委嘱状の交付や今後の事業説明などがありました。今後協議会では、全町民が利用できる有料バスも視野に、利用者への影響や施設整備の調査を行うこととなります。

第1回須恵町地域公共交通活性化協議会(庄野稔尋会長(副町長))が、5月30日(金)に役場会議室で開催されました。

須恵町地域公共交通活性化協議会が発足

きめ細かな公共交通を目指して

福祉バスをもっと便利に

本町では、昭和50年代から福祉バスを無料で運行し、地域と公共施設を結んでいます。

現在は、2台の福祉バスが町内を巡回しています。しかし、利用者の数に對して維持管理費がかかり、財政的に、今後も無料の福祉バスの運行は厳しい現状にあります。また、運行区域も限られており、利便性の向上を望む声が多く寄せられています。

7月は 同和問題啓発強調月間です

福岡県では、7月を「同和問題啓発強調月間」と定め、県下一斉に部落差別をなくし、一人ひとりの人権が大切にされる明るい社会を築くために、県民あげての啓発活動に取り組みます。

社会を明るくする運動強調月間

この運動は、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力をあわせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的に取り組まれる運動です。

粕屋保護区保護司会須恵支部



中嶋町長(左)から委嘱状交付

- ▼現況交通実態調査
 - 交通空白地帯で高齢者などの移動調査
 - バス利用者の調査(路線バス、福祉バス)
 - 鉄道および路線バスの乗り継ぎ調査

- 待合所、トイレなどの施設調査
- ▼バスと鉄道などの連携調査
 - バスと鉄道の連携調査
 - 交通ターミナル可能性調査
- ▼観光資源との連携調査
 - 観光資源との連携調査
 - ▼利用者ニーズ把握調査
 - 交通空白地帯での利用者ニーズ
 - 路線バスの路線、時間帯などの利用者ニーズ
 - 待合所、トイレなどのニーズ
 - 福祉バス有料化の影響

今後予定される調査項目

